

抜粋

宇部市

まち・ひと・しごと創生総合戦略

～暮らしてよし、働いて良しの

市民が誇りを持てるまちづくり～

平成27年10月

I 総合戦略の策定趣旨

1 趣旨

我が国は急激な人口減少と超高齢社会に直面しており、今後も更なる人口の減少や高齢化が見込まれています。人口減少問題は、国の将来に大きく関わってくる課題であり、一刻も早く対応していかなければなりません。

このような中、国においては、平成26年11月に「我が国で急速に進む人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口集中を是正し、地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持する」ことを目指す「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、12月にはその取組指針として、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方における安定した雇用の創出や地方への新しいひとの流れ、若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現、地域の特性に即した地域課題の解決などを基本に、魅力と活力あふれる地方の創生に取り組むこととしています。

本市の人口の将来推計(国立社会保障・人口問題研究所)によると、平成22年に比べて、平成32年に約1万2千人、平成52年に約4万5千人、平成72年には約7万7千人減ることが予測されています。

人口減少がそのまま進むと、税収減による社会サービスの低下、市内産業の衰退や日常生活に必要な生活サービス機能の維持が困難になっていく恐れがあり、また、子育て世代の減少に伴い、市内の出生数も減少を続け、人口全体が先細りしていく悪循環に陥っていくものと想定されます。

このため、長期的な人口の将来展望に基づき、国の総合戦略の基本的な考え方や政策5原則(自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視)等を踏まえ、出生率の向上とともに、人口の流出と流入の均衡を実現するための戦略的な施策展開を図ることにより、人口減少の幅を抑制し、持続可能な都市づくりを目指すため、「宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「宇部市総合戦略」と言う。)を策定します。

2 基本的な施策の方向

今後の人口減少・少子高齢社会が進行する中であっても、本市が魅力と活力にあふれ、持続可能な発展をしていくためには、まず、「しごと」と「ひと」の好循環を確立していく必要があります。

このため、本市がこれまで取組んできた産業振興策をさらに強化し、環境エネルギー産業やヘルスケア産業等の「しごと創り」に取組み、これらによって、安定した雇用の場を創出し、就業率等の向上とともに、市民一人当たりの所得や生産性の向上を図ります。

こうした取組みを進めることにより、若者やアクティブシニア層をはじめ、幅広い世代の人材の誘致など、人口の定着を図り、市民誰もがはつらつと暮らしていくことができるような健康活躍社会の実現とともに、「暮らして良し、働いて良しの市民が誇りを持てるまちづくり」を目指し、本市の地方創生を進めていきます。

3 総合戦略の位置づけ

(1) 総合計画と宇部市総合戦略について

宇部市総合戦略は、第四次宇部市総合計画基本構想に掲げる5つのまちづくりのキーワード(環境、安心、健康、市民力、地域ブランド)を視点を置き策定した中期実行計画(平成26年2月策定)をベースに、「人口減少対策」に資する施策を戦略化し、重点的に推進するための計画として策定するものです。

(2) 法的位置づけについて

「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく、「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」として位置づけます。

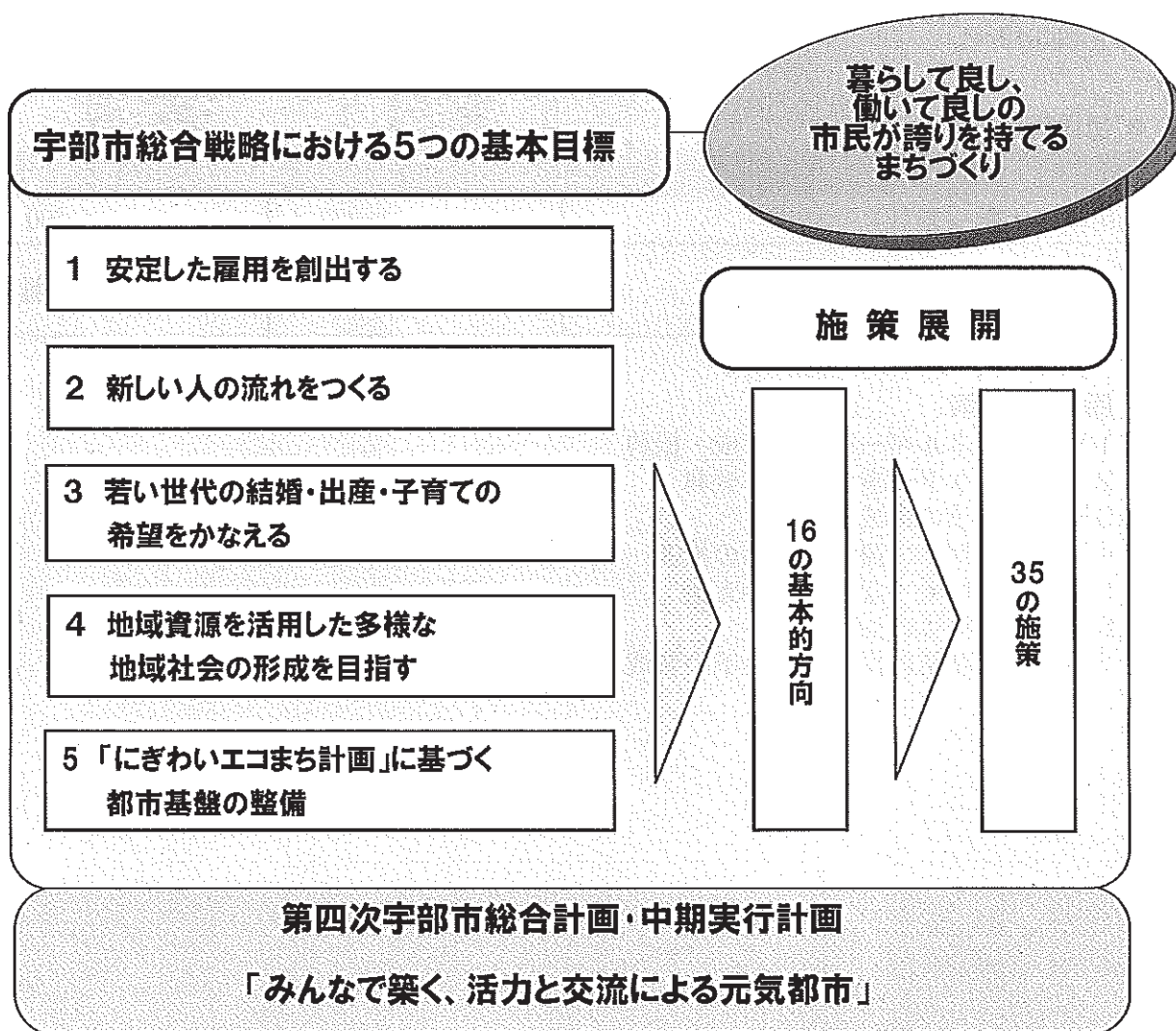
4 総合戦略の対象期間

宇部市総合戦略の計画期間については、国の総合戦略の計画期間に合わせ、平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

II 政策の基本目標

人口減少や超高齢化の進行に伴う地域活力の低下など、多くの地域課題に対して、本市は住民に身近な基礎的自治体として、自らの知恵とアイデアを絞って、これらの課題解決に向けて立ち向かい、市民をはじめ、産学公など「地域の力」が一体となって、今後の地方創生に取り組んでいかなければなりません。

このため、国の総合戦略が示す政策4分野ごとの基本目標及び「宇部市人口ビジョン」を踏まえ、「安定した雇用を創出する」、「新しい人の流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「地域資源を活用した多様な地域社会の形成を目指す」、そして「にぎわいエコまち計画に基づく都市基盤の整備」の5つを基本目標とし、今後、本市が取り組んでいく上での方向性を示します。



基本目標 1：安定した雇用を創出する

本市の人口動態を見ると、高校や大学等卒業時の転出が多く、転入者を大きく上回っています。大学に進学する高校生の58.2%が市外への進学を、また、市内大学生の88.6%が市外への就職を希望しており、15歳から24歳までの若者の多くが流出している状況にあります。

このような若い世代の流出に歯止めをかけ、活力あるまちづくりを進めるためには、まず「しごと創り」が重要であり、若い世代が本市で継続して働くことができるよう安定した雇用の創出を図る必要があります。

このため、工業都市として発展してきた本市として、商工会議所・商工会、金融機関等による産業振興連携をさらに深め、これまで取り組んできた産業支援策を強化・発展させることに加え、産学公一体となった環境保全の取組や充実した医療環境、海の幸・山の幸を産する恵まれた自然環境など優れた地域資源を最大限に生かし、環境エネルギーやヘルスケア、観光分野における産業の育成・振興、6次産業化・農商工連携の推進などの「しごと創り」に取り組む、多世代雇用と所得の向上を図ります。

● 目標指標

指 標	現 状 値 (H26 年度)	目 標 値 (H31 年度)
雇用創出人数（累計）	1,273 人	2,700 人
市内総生産 （山口県市町民経済計算）	6,100 億円 (H24)	維持

● 展開する施策

- (1) 環境エネルギー産業の育成・振興
- (2) ヘルスケア産業の育成・振興
- (3) 観光産業の育成・振興
- (4) 6次産業化・農商工連携の推進
- (5) 雇用の促進・起業創業の支援
- (6) 中小企業等の振興
- (7) 農林水産業の振興と担い手の育成

基本目標2：新しい人の流れをつくる

本市の人口減少の要因として、転出者が転入者を超える状況が挙げられますが、まちの活力を維持していくためには、積極的に人の誘致を行い、転入人口の増加を図っていく必要があります。

本市で暮らす人の流れをつくるために、若者やアクティブシニア層など幅広い世代に働きかけるとともに、豊かな自然環境に恵まれた工業都市として、また、福祉医療都市として、さらに、彫刻によるまちづくりを進めている都市として、これらの地域特性を踏まえた、人材の居住誘導に取り組み、UJターンによる移住・定住の促進など戦略的に転入者の増加を図ります。

また、本市へ訪れる人の流れをつくるために、観光資源の拡充や地域資源の再発見・新たな資源の発掘を進めていくとともに、その魅力についての情報発信を強化していく必要があります。

平成26年には観光客数が初めて100万人に達するなど、市内のイベントの充実やシティセールス活動の強化により、本市を訪れる人は増加傾向にあることから、ときわ公園やUBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）をはじめとする他市にはない本市独自の観光資源を中心に、本市の魅力を積極的にアピールして交流人口の増加を図ります。

● 目標指標

指 標	現 状 値 (H26 年度)	目 標 値 (H31 年度)
転出超過数	721 人	半減
観光客数	107 万人/年	180 万人/年
延べ宿泊者数	20.2 万人/年	25 万人/年

● 展開する施策

- (1) UJターン・移住定住の促進
- (2) 大学等と連携した若者等の定着支援
- (3) 地域資源を生かした交流・シティセールスの推進

基本目標 3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

本市においては、人口の社会減とともに、自然減も年々増加しています。併せて、少子化も進んでいます。その要因の一つとして未婚化・晩婚化による既婚者比率の減少等が挙げられます。

また、核家族化やひとり親家庭の増加など、子育ての基礎となる「家庭」を取り巻く環境が変化し、子育てに対する不安感や負担感が増大するなど、安心して子どもを産み育てることが難しい社会環境となっています。さらに、養育費や教育費など、経済的な理由により、理想の子どもの数を持っていない家庭も増えています。

こうしたことから、社会全体で結婚、妊娠・出産、子育てを支える取組や子育て世帯の負担軽減等により、子育てしやすい環境づくりを進めることが重要です。

このため、結婚から子育てまでの切れ目のない支援を総合的に行うことにより、安心して子育てできる環境を創るとともに、学力向上に向けた取組やICTの活用など、質の高い学校教育を進めていくことによって、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」環境づくりに取り組みます。

● 目標指標

指 標	現 状 値(H26年度)	目 標 値 (H31年度)
合計特殊出生率	1.57 (H25)	1.65
女性就業率 (25歳～44歳) (総務省国勢調査)	68.5% (H22)	73%

● 展開する施策

- (1) 結婚・出産・子育てへの切れ目のない支援
- (2) 魅力ある優れた教育機会の提供

基本目標 4：地域資源を活用した多様な地域社会の形成を目指す

本市の高齢化率は30%（平成27年7月）で、概ね3人に1人が高齢者という人口構成になろうとしており、将来的には地域活動の担い手が不足することが懸念されています。

全ての市民が健康に関心を持ち、健康づくりに努めながら、地域の高齢化が進む中であっても、災害に対する対応や生活の利便性など、地域がその特性に応じて、自主的・自立的に特色ある地域づくりを行うことができる仕組みをつくることが重要です。

このため、地域の課題やニーズに対して、住民と行政が協働で取り組むシステムを構築し、地域コミュニティの更なる充実と活性化を図ります。

また、市民が安心して必要な医療が受けられるよう、医療体制の整備を行うとともに、市民の協力や保健・医療・福祉の連携によって地域福祉の充実を図ります。

さらに、中山間地域の住民が、安心・安全で心豊かに暮らし、「これからも住み続けたい」と実感でき、また、地域住民以外からは「行ってみたい、住んでみたい」と思えるような魅力ある中山間地域づくりを進めます。

● 目標指標

指 標	現 状 値 (H26 年度)	目 標 値 (H31 年度)
健康寿命	男性 78.01 歳(H22) 女性 82.92 歳(H22)	延伸
地域福祉活動拠点箇所数(累計)及び参加者数(延べ人数)	16 か所 延 28,792 人	60 か所 延 108,000 人

● 展開する施策

- (1) 住み慣れた地域で安心して生活できる基盤の整備
- (2) 地域課題を自ら解決できる元気コミュニティ・小さな拠点づくり
- (3) 人口減少社会に向けた行政機能の効率化

基本目標 5 : 「にぎわいエコまち計画」に基づく都市基盤の整備

「宇部市総合戦略」に掲げる4つの基本目標を達成するためには、人口減少対策や人口定住に寄与するソフト施策の効率的・効果的な展開と併せて、今後の社会を見据えた最適な都市基盤の整備も進めていくことが重要です。

本市では、まちづくりにおいて、地球環境に優しい暮らし方や少子高齢社会における暮らしなど、課題解決に向けた新しい視点を盛り込み、住民や民間事業者と一体となって、魅力的で利便性の高い、にぎわいのある持続可能なコンパクトなまちづくりを進めるために「宇部市にぎわいエコまち計画(低炭素まちづくり計画)」を平成27年3月に策定しました。(計画期間:10年間)

この長期にわたる「にぎわいエコまち計画」に基づいて、計画に示す「多極ネットワーク型コンパクトシティへの転換」、「エネルギー利用のスマート化」、そして「市の顔としての中心市街地の魅力向上」の実現を目指すとともに、都市拠点としての中心市街地の整備を「総合的整備計画」として先導的に進め、公民連携による宇部の地方創生に取り組んでいきます。

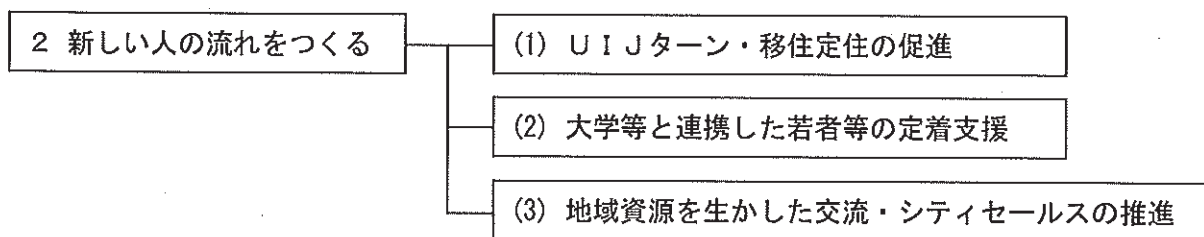
● 目標指標

指 標	現 状 値 (H26 年度)	目 標 値 (H31 年度)
中心市街地の定住人口	6,299 人	7,100 人
中心市街地の休日一日当たりの通行者数	9,382 人/日	15,500 人/日

● 展開する施策

(1) 総合的整備計画の推進

2 新しい人の流れをつくる



(1) UIJターン・移住定住の促進

若者・子育て世代やアクティブシニア層等のUIJターンを促進するため、自然豊かな本市の魅力をタイムリーに情報発信するとともに、住宅改修費助成制度の運用や移住希望者の相談窓口の運営、空き家の利活用、お試し移住制度、宇部版CCRCの取組等を通じて、移住先として本市を選択するきっかけづくりを進め、移住・定住者の増加を図ります。

施 策	① 移住・定住への支援
取組内容	ア 本市への移住・定住を検討されている方に対する相談窓口として、「おいでませ！うべ 移住・定住サポートセンター」を運営します。また、移住者が地域に溶け込み、経験や技術が生かせる充実した生活を送れるよう「移住・定住コンシェルジュ」を設置し、地域や学校、地元企業等と連携して、移住者のニーズやライフスタイルに合わせたマッチング、移住後のアフターケアなど、きめ細かな対応に取り組みます。
	イ 県の実施する「やまぐちUJIターンパスポート制度」と連携し、移住・定住のきっかけづくりとして宇部市暮らし体験ツアーやお試し移住制度を実施します。また、本市のまちの魅力や、地元企業魅力を分かりやすくPRするとともに、企業訪問ツアーを行うなど、若者を惹き付ける取組を推進します。
	ウ 田舎暮らしに関心のある幅広い年齢層が興味を持てるような移住体験イベントを実施するとともに、地域住民と協働した受入・支援体制を確立させ、中山間地域へも移住・定住の促進を図ります。 <div style="text-align: right;">【再掲:P36「②中山間地域づくりの支援」エ】</div>
	エ UIJターンにより市外から転入する中学生以下の子どもがいる子育て世帯や、中山間地域への移住者に対し、自宅として利用する物件の改修費用の一部を助成します。 <div style="text-align: right;">【再掲:P36「②中山間地域づくりの支援」オ】</div>

	オ	国の制度等の活用によるプロフェッショナル人材のお試し就業や、本市の地域特性を活かしたまちづくりに必要な医療福祉従事者、クリエイティブ人材などの移住・定住を促進します。また、お試し就業者に対して、国・県制度と連動して、家賃の一部を助成します。	
	カ	移住・定住の受け皿として、吉部住宅団地やアカデミータウン等の市有地の販売を推進します。	
	キ	本市への移住・定住への関心を高めるため、国や県等と連携して、本市の魅力や移住・定住情報を発信するとともに、ふるさと納税の返礼品の充実に取り組みます。	
	ク	様々な世代が共働・交流するまちづくり等を促進するため、本市の特長である医療・介護施設・大学など充実した地域資源を活用した宇部版CCRCに取り組みます。	
		【再掲:P36「①元気・安心・地域づくりの推進」】	
重要業績 評価指標 (KPI)	項 目	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
	移住・定住者増加数(累計)	—	450人
	60歳から64歳までの男女の就業率	57.5%(H22)	65%

施 策	② 空き家の利活用促進		
取組内容	ア	空き家の利活用を促進するため、住宅情報バンクによる積極的な物件情報を発信するとともに、賃貸・売買を目的とした空き家内にある家財の撤去に要する費用の一部を助成します。	【再掲:P36「②中山間地域づくりの支援」】
	イ	民間の取引による空き家の利活用を促進し、良質なストックの掘り起こしとニーズの把握を図るため、空き家リノベーションなどの研修会・セミナー等を開催します。	
	ウ	空き家となっている古民家を交流の場等として再生し、地域の振興を図るため、学生をはじめ多様な主体から利活用やリノベーションなどの優秀な提案に対して、改修費等必要な経費を助成する制度を創設・運用します。	
重要業績 評価指標 (KPI)	項 目	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
	空き家活用件数(累計)	5件	30件

(2) 大学等と連携した若者等の定着支援

地域の課題解決のために、地(知)の拠点である大学等との連携を図り、人材育成や共同研究、留学生の支援などに取り組むとともに、インターンシップの受け入れなど学生等の地元就職を促進します。

また、学生に対し、本市の魅力や愛着を感じてもらい、卒業後も居住を促進する取組を進めます。

施策	① 大学等連携の推進		
取組内容	ア	県内大学や企業等と連携し、地域課題の解決に取り組むとともに、地域産業を自ら生み出す人材など未来を担う人材を育成し、本市に就職・定住する取組を推進します。	
	イ	学生がまちづくりに参画できる機会を増やすとともに、生活環境やまちづくりに対する学生の要望・意見を反映するしくみを導入します。	
	ウ	大学生等若者の活動拠点となる「(仮称)若者未来センター」において、公・民・学の連携によって行う、中心市街地を賑わいのあるまちに再生するための調査研究・提案・コーディネート等のまちづくり活動(エリアマネジメント)に対して支援します。	
	エ	コミュニティ・スクールやうべ協育ネットのしくみを活用し、大学等の多様な分野のスペシャリストによる、小中学生を対象とした出前授業等の実施を促進し、子どもたちに様々な学びの機会を提供します。	
	オ	テクノロジー等分野での人材を育成するため、全国的に活躍している専門家を招き、大学等と連携して学生等を対象にした講座を開きます。	
	カ	留学生を含む外国人のための日本語講座の開催や、留学生と市民との相互理解を深めるための交流活動を支援します。	
	重要業績 評価指標 (KPI)	項目	現状値(H26年度)
大学生等の市内就職割合【再掲】		12%	22%

(3) 地域資源を生かした交流・シティセールスの推進

本市の認知度をアップし、交流人口や移住・定住人口の増加を図るため、様々な媒体を活用し、豊かな自然と温暖な気候、充実した医療環境やフルラインナップの教育環境など、まちの魅力や暮らしやすさを積極的にPRしていきます。

貴重な観光資源であるときわ公園の魅力をアップするために、「ときわ公園活性化基本計画」に基づき、「環境・芸術・スポーツ・福祉」の融合した先進的モデル公園化を進め、賑わいの創出を図ります。

また、UBEビエンナーレの開催を観光資源の目玉として国内外に向けて情報発信します。

さらに、彫刻に対する市民の誇りと愛着心を醸成して彫刻文化を次世代に継承するために、

「彫刻のまち 宇部」を積極的にアピールするとともに、市民が彫刻に親しむ機会を創出することにより、彫刻やまちづくりに関心を持ち、楽しんで参画する公民連携の彫刻による「アートによるまちづくり」を進めます。

施 策	① ときわ公園の魅力向上		
取組内容	ア	市制施行90周年記念事業である、ときわ動物園のリニューアル整備、また、「ときわ公園緑と花の計画」に基づく、憩いの家改修やビオトープ整備、花壇整備等を実施します。	
	イ	ときわミュージアムの温室が平成27年度に開館20周年を迎えることから、「世界を旅し、感動する植物館」をコンセプトに、温室のリニューアルに取り組みます。	
	ウ	観光客誘致のため、宿泊プラン・スタディツアーや修学旅行などの商品開発を行うとともに、民間プロデュースによる充実したイベントや光や音のイベント等を開催し、併せて情報発信も強化することで、若者や子育て世代、また広域からの集客に取り組み、入園者数の増加を図ります。 【再掲:P12「①ツーリズム等の創出」】	
	エ	他の芸術祭や文化施設等との連携により、ときわ公園全体の魅力をPRし、入園者の増加を図ります。	
	オ	ときわ公園公式ホームページや施設ガイド、案内標識板等を多言語化し、海外からの観光客の誘致を強化します。	
重要業績 評価指標 (KPI)	項 目	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
	ときわ公園入園者数	51.2万人/年	80万人/年

施 策	② アートによるまちづくり		
取組内容	ア	新たな交流人口を生み出し、「ひと」と「まち」の活力を創出するため、UBEビエンナーレを核として、まちなかアート・フェスタ、うべの里アートフェスタ、宇部市芸術祭を融合させ、「食」の要素を加えた「UBEビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ」を、内容を充実させながら開催します。	
	イ	UBEビエンナーレ本展や、開催中に実施する企画展、ワークショップ、関連企画等を通じ、彫刻とふれあう機会を創出します。	
	ウ	企業や事業所等の協力による彫刻作品の制作や関連商品の開発、市民活動団体の関連イベントの開催を支援します。	

	エ	平成23年度から開始した「彫刻教育推進事業」をさらに発展させ、学校教育との連携の中で、本市の彫刻の歴史への理解、愛着心の醸成を図ります。	
	オ	文化振興の推進母体である宇部市文化創造財団による新たな自主文化事業、人材育成事業に対し支援を行います。	
	カ	伝統文化活動を行う拠点となる施設の環境改善に取り組むとともに、利用可能施設の紹介など、積極的な情報提供を行い、文化活動の促進を図ります。	
	キ	本市が毎年開催している全国小・中学生箏曲コンクールのブランド化を図るため、市民を対象としたワークショップを定期的に行い、市民の箏に対する関心と親近感を高めます。	
	ク	アーティスト イン レジデンスの実施等によって、アーティストとの交流を通じ、市民がアートにふれあう機会を創出します。	
重要業績 評価指標 (KPI)	項 目	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)
	UBEビエンナーレ来場者数	51,800人/年 (H25)	70,000人/年
	UBEビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタの来場者数	51,800人/年 (H25ビエンナーレ)	112,000人/年

施 策	③ うべの魅力の効果的な発信
取組内容	ア 映画やテレビドラマ、CMなどのロケーションの誘致及び撮影等への支援に積極的に取り組むことにより、映像によって宇部の魅力を伝え、市民の郷土愛の醸成を図るとともに、宇部の都市ブランド力の向上と交流人口拡大による地域活性化を図ります。 【再掲:P13「②観光情報の発信」オ】
	イ 宇部市シティセールspartnerをはじめ、県外の同郷会、宇部ふるさと大使等の人的ネットワークとの連携を強化し、タイムリーな情報発信を図ります。 【再掲:P13「②観光情報の発信」カ】
	ウ 姉妹・友好都市をはじめ、駐日外国公館、これまで本市と交流のあった外国の都市、留学生を含む市内在住外国人と連携し、交流を通じた情報発信を図ります。 【再掲:P13「②観光情報の発信」キ】
	エ ときわ公園入園者の増加を図るため、園内施設の充実や魅力あるイベントを開催するとともに、国内外からの旅行を誘致し、真心あるおもてなしをもって、宇部市全体の魅力を高めていきます。また、ときわ公園で開催されるUBEビエンナーレなど観光資源の魅力をより多くの人にPRするため、定期的な情報発信（ソーシャルネットワーク等）や、新たな情報発信のコンテンツの活用など、情報発信力強化を図ります。

	オ	ときわ公園内に、無料の公衆無線LAN環境などICTを活用した情報通信基盤を整備します。		
	カ	県や関係機関等と連携し、山口宇部空港の利用者をはじめ、首都圏や近隣圏域等ターゲットに合わせた効果的・効率的なプロモーションやメディア戦略を展開します。 【再掲:P13「②観光情報の発信」カ】		
	キ	真締川やその水辺空間を市民や企業とともにソーシャルデザインし、水辺の賑わいを取り戻すための「宇部版ミズベリング・プロジェクト」を進めます。		
	ク	レジャーや憩いの場として利用されている白土海水浴場とその周辺海岸等の利用促進を図るため、安心安全に利用できる環境整備を進めます。		
	ケ	全国規模のスポーツ大会の開催を支援するとともに、全国大会等に参加する市民・団体を支援するなど、市民がスポーツを通して交流を深め、地域への愛着や一体感・連帯感を醸成することができる機会を創出します。また、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向け、地域間の交流や地域活動の活性化など、まちづくりへの相乗効果を生むスポーツ大会やイベントの開催を支援します。		
	コ	市民や体育協会、観光コンベンション協会、旅館組合等の各種関係機関、民間事業者と連携し、スポーツコミッションによる魅力あるスポーツ事業の創出を支援します。		
	サ	スマートフォンアプリ「うべ観光ナビゲーター」など、観光情報の発信媒体を整備します。 【再掲:P13「②観光情報の発信」エ】		
重要業績 評価指標 (KPI)	項 目	現状値(H26年度)	目標値(H31年度)	
	TV・映画等ロケ地誘致数 (累計)	3件	15件	
	市の認知度(地域ブランド調査) 【再掲】	26.7点	32点	